

北海道第二次

自給飼料増産推進 モデル飼料畑耕作の検討会

道南・道央・道北地区 編集 部

一昨年に続きまして、昨昭53年実施された、モデル飼料畑栽培の成績とりまとめと、検討会が行われましたので要旨をお知らせいたします。尚文中敬称は略させていただきます。

検討会出席者

地 区	町 村	農 家 名	普及所担当氏名
道 南	八雲町	細 川 和 彦	和 田 良 司
日 胆	伊達市	真 柳 源 太 郎	小 野 瀬 幸 次
道 央	千歳市	佐 竹 公 男	春 日 朗
上 川	美瑛町	菅 野 勝 美	広 門 正 一
天 北	枝幸町	津 川 晴 雄	松 岡 賢
" "	" "	高 橋 一 郎	藤 岡 政 一
北 見	興部町	及 川 政 雄	加 藤 義 雄

註 i) 藤岡さんは農協営農課

ii) 及川さんは欠席

中野社長

昨年の成績がまとまりまして、一堂に会して検討する機会ができました事を大へん嬉しく存じます。この成果は私共の研究開発事業の中にも、或いは普及事業の中にも既に有効に利用させていただいており、皆様のご苦勞が広く酪農家の方々に反映していくものと期待しております。

昨年の北海道は天候に恵まれ、作物の出来も最

高の年でありました。その結果牛乳生産も順調に伸び、前年対比8%増となった事はご同慶にたえません。しかし消費の伸びは4~5%ですから、この差が余り乳となって、業界の悩みとなっております。消費の促進運動も出てきております。

一面生産する立場としても、牛乳の質の向上、生産効率のアップ、コストのダウンという事が要望されましようが、こうなりますとこのモデル栽培事業の重さが愈々大切であると痛感する次第です。良いタネ、最も適した品種をご利用いただき、栽培技術の向上、確立により、更に地力の培養、上手な貯蔵、適切な飼養管理と相まって、酪農経営改善の立に役上たせていただきたいと思っております。

1 どうもろこしの部

概況 昨年は後半気象条件が良く、道北でも充分子実が登熟した恵まれた年でありました。反面収穫時熟期が進みすぎ2次発酵の心配もあります。サイレージタイプのニューデントはこの点でもやや良かったと判断されます。また道央方面では高温時のゴマ葉枯病が品種により見られました

目 次



ビートー多汁質飼料一の
収穫風景

□粗飼料多給による肉牛肥育について……………	表②
□自給飼料増産推進モデル飼料畑耕作の検討会……………	1
■飼料作物に対する牛ふん尿施用限界と問題点	鈴木 進…… 8
■小果樹の作り方と利用法(下)	中島二三一……13
□粗飼料多給による肉牛肥育について……………	表③

が、全般的傾向として、機械化栽培が更に普及して参りましたので、耐倒伏性が重要視されると思います。(山下研究室長)

八雲 気象では夏特に高温で9月にやや低い形となり、積算温度で120℃多く日照時間も120時間位多いでした。この結果絹糸抽出期が10日位早くなっており、収穫適期としては抽出後50~60日がよいと考えております。品種ではN110日とP中晩生が満足できると思います。(和田)

1番牧草収穫後の6月播区ではN85日が良く、6,000本確保が大切です。除草剤の使用をもっと適切に活用することも必要と感じました。前作の牧草の収量は2t位あります。

病害については、晩生種程出る傾向が見られます。(細川)

伊達 5月上旬播種で鉛丹、コールドールをまぶし鳥害もなく発芽は良かった。草丈は異常な程

八雲町大新 細川さん 昭53年

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生総重 kg	生総重中 のTDN %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 %	T D N 収 量 kg/10a	雌 穂 生 重	
	雄 穂	絹 糸										
5月12日播			5,602本 (1.8本立)			72.7×44.2cm		収穫10月6日				
N 110日	7月31日	8月5日	274	96	完	6,366	20.9	1,870	48.6	1,332	1,536	
N 115日	8月2日	7	317	135	完	7,015	17.3	1,767	39.4	1,215	1,385	
N 120日	5	10	304	137	糊 前	9,270	15.4	2,082	39.2	1,431	1,733	
P 中生	1	8	264	94	完	6,876	20.7	2,006	47.3	1,422	1,788	
P 中晩生	2	5	271	112	完	7,959	19.2	2,155	48.0	1,531	1,965	
P 晩生	7月31日	3	279	120	黄 中	8,288	17.4	2,048	45.3	1,441	1,777	
W 115日	31	3	267	106	黄 後	5,427	20.4	1,592	42.0	1,106	1,265	
6月15日播			5,601本 (1.8本)			72.7×44.2cm		収穫10月6日				
N 85日	8月8日	8月14日	223	85	完	5,138	22.1	1,596	47.6	1,133		
N 95日	9	14	252	92	黄 中	4,464	20.0	1,256	48.3	894		
N 105日	7	11	245	97	黄 中	6,177	17.9	1,569	45.3	1,104		
P 早中B	10	15	235	89	完	5,406	20.7	1,573	47.7	1,117		
P 中生	8	12	251	79	黄 中	5,188	17.0	1,269	41.6	880		
W 85日	9	13	232	88	黄 後	5,317	20.4	1,549	44.1	1,085		
SH255E	5	13	220	86	黄 後	4,284	21.4	1,300	45.8	916		
S H10	6	13	221	81	黄 初	5,002	20.5	1,445	47.6	1,026		

伊達市 真柳さん 昭53年

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生総重 kg	生総重中 のTDN %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 %	T D N 収 量 kg/10a	雌 穂 生 重
	雄 穂	絹 糸									
播種5月8日, 施肥量: 堆肥5t, I B 硫化燐安14-18-12-4 60kg, 追肥 硫安21% 30kg											
施肥6月15日, 中耕6月15日, 除草剤5月9日ラッソー 6月18日ラッソー ゲザプリム, 収穫9月20日											
5,952本 (70×24×1本)			降灰で特に少ない↓								
N 115日	8月6日	8月7日	347	117	黄中	6,963	17.4	1,818	32.0	1,214	1,160
J X 180	5	8	345	156	黄前	7,455	16.3	1,787	36.7	1,216	1,339
N 120日	7	9	336	148	黄中	6,547	14.6	1,428	32.9	958	1,042
W 120日	8	10	300	142	黄前	8,080	13.8	1,662	32.3	1,111	1,295

火山灰降灰 1) 8月8日 2) 8月9日 3) 8月11日 4) 8月12日 5) 9月7日 別畑N120日火山灰付着率重量比調査8/17日 17.2%, 8/23 16.8%, 9/3 14.6%, 9/6 11.3%, 9/11 9.6%, 10/4 9.3%

千歳市 佐竹公男さん

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 度	生総重 kg	生総重中 のTDN %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 %	TDN 収量 kg/10a	雌 穂 生 重
	雄 穂	絹 糸									

堆肥 4 t 炭カル90kg 重焼燐40kg 化成3-6-3:60kg 除草剤7月1日ゲザブリム

5月6日播 6,400本(75×25) 追肥 7月1日尿素15kg 収穫9月19日

N 110日	7月27日	8月3日	242	84	糊 中	5,470	19.5	1,475	52.4	1,066	1,890
W 110日	24	7月28日	230	86	糊 後	5,410	22.7	1,685	54.6	1,227	1,950
N 110日	27	8月4日	282	107	黄 前	6,300	19.9	1,767	48.0	1,256	1,860

6月13日播 6,400本(75×25) 施肥量同じ 除草剤なし 収穫9月17日

SH225E	8月3日	8月7日	204	74	黄 前	4,130	23.9	1,304	65.3	987	
S H 10	4	6	208	71	黄 中	4,580	21.3	1,322	58.6	977	
N 85日	4	7	226	89	糊 後	3,780	19.4	1,042	45.6	734	
P 早中B	6	11	233	82	糊 後	3,900	18.7	1,008	53.5	731	
N 95日	6	11	243	93	乳 中	4,480	18.5	1,173	47.1	831	
W 95日	8	13	230	87	乳 後	3,680	18.1	932	49.5	866	

ゲザブリムの混用をしたが効果的でした。(広門)

6月播の試験区の収穫は9月27日だが圃場の本収穫は10月9～21日でした。完熟したものもありサイロからジュースが出ませんでした。サイレージで25kgはととも食べられず、20kgで充分です。尚追肥しなかった為か雌穂の先端まで実が入らなかったのが特徴です。6月播ではこの地帯では、6月上旬が限界の様に思います。(菅野)

枝幸 宗谷管内のとうもろこし作りは、非常に天候に左右される北限地帯です。早生品種の実の入るために有効積算温度が800度内外としますと53年は1,000℃を越していたのでTDNで1tを超す収量があったが、700℃以下の低温年もあるのでTDNで750kg最低ほしいと思います。

美瑛町 菅野勝美さん

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生総重 kg	生総重中 のTDN %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 %	TDN 収 kg/10a	雌穂生重
	雄 穂	絹 糸									

5月播 5月14日播種 6,038 (72×23) 収穫9月27日

N 95日	8月12日	8月15日	252	109	黄中	5,238	20.4	1,469	54.5	1,069	1,690
N 105日	7	10	249	109	黄後	6,068	20.7	1,710	56.6	1,255	1,992
N 110日	7	10	253	91	黄後	5,177	20.0	1,426	53.2	1,033	1,720
W 110日	7	10	240	97	黄後	5,509	21.0	1,553	60.4	1,155	1,872

6月播区

6月16日播種 6,038本(72×23) 収穫9月27日

N 85日	8月5日	8月8日	218	72	黄前	6,279	17.9	1,548	54.5	1,127	
N 75日	2	8	213	74	黄後	4,649	17.3	1,090	58.3	805	
ワセホマレ	5	10	213	63	黄後	5,223	17.6	1,239	60.0	920	
SH225E	5	10	221	77	黄後	5,856	16.6	1,340	53.3	971	
S H 10	2	8	185	55	黄後	5,011	15.9	1,107	51.1	796	

こさないサイレージタイプの品種で黄熟期を収穫適期として作るべきでしょう。(三浦常務取締役)

一般に熟期の判定は圃場の外側の株をみるが、案内内側のコーンは進んでいない場合があるので全体のバランスをみて判断すべきです。(和田)

興部 こちらは有効積算温度が900℃ありますから90日前後が適品種と言えます。5月8日と早播をしたが発芽に日数を要し必ずしも良かったとは言えませんでした。それと夏の早魃で草丈が伸び切れないうち抽出期となり、収量は不本意なものでした。(加藤)

播種期について

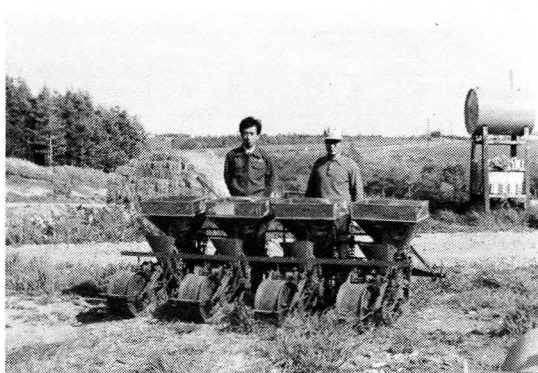
枝幸では5月16日播いて6月12日発芽しているが種子も腐ったところもあるんですね。(和田)

51年は発芽に40日かかりました。5月下旬はひどい早魃になる年が多いので早播きしている訳ですが、長雨か早魃のどちらかに偏ります。(松岡)

矢鱈に播種が早すぎると種子の腐敗もあろうし発芽勢が悪くなるので、地温、土壤水分の関係を調べておく必要があります。(和田)

施肥について

早播きが良いことは事実ですが、発芽まで20日



津川さんのコーンプランター

以上かかるというのは考えるべきだと思います。施肥について問題はありますか。(三浦)

種子と肥料が一緒になると肥料焼けを起こすので私はプランターの肥料出口を改造して横に入るように工夫して成功しています。(津川)

肥料焼けを起こさない為には基肥は80kgが限度であとは追肥に廻した方が結果的に良いと思います。N成分で8kg(2/3)位でしょう。(菅野)

熟期の揃性

ヘイゼンワセは過熟して実が落ちる傾向がありまして、十勝では収穫後放牧してひろい食いをさ

枝幸町 山臼 津川さん

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生総重 kg	生総重中 のTDN 比 %	風乾物 総重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	TDN 収量 kg/10a	雌 穂 生 重
	雄 穂	絹 糸									
5月16日播 6,800本 65×22.6			収穫9月26日								
ハイゲンワセ	7月26日	8月1日	212	83	完	4,447	22.4	1,348	58.9	997	1,350
N 75 日	25	7月31日	228	93	完	5,049	20.3	1,399	56.5	1,026	1,465
P 早中A	27	8月2日	229	81	黄 後	5,263	20.7	1,479	57.7	1,089	1,537
ワセホマレ	26	1	216	60	完	4,410	21.1	1,263	57.6	930	1,261
N 85 日	29	3	224	82	黄 後	6,018	19.8	1,619	56.9	1,189	1,785
S H 255E	28	5	235	91	完	5,647	18.8	1,452	55.0	1,059	1,567
S H 10	29	2	218	75	完	5,304	19.9	1,428	57.9	1,053	1,615
S H 250	28	1	214	71	完	4,862	22.0	1,444	58.7	1,071	1,649

枝幸町 風烈布 高橋一郎さん

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生総重 kg	生総重中 のTDN 比 %	風乾物 総重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	TDN 収量 kg/10a	雌 穂 生 重
	雄 穂	絹 糸									
5月15日播 6,800本 65×22.6			収穫9月26日								
ハイゲンワセ	7月25日	7月30日	219	67	完	3,825	23.0	1,174	61.9	878	1,326
N 75 日	26	31	224	77	完	4,896	20.5	1,369	56.4	1,003	1,445
N 85 日	31	8月5日	230	80	黄 後	5,695	19.6	1,521	56.7	1,117	1,700
P 早中A	28	3	237	84	完	4,913	20.6	1,371	58.8	1,014	1,547
ワセホマレ	26	2	210	49	完	3,585	22.0	1,059	60.9	789	1,219
S H 255E	29	3	234	78	完	5,610	19.5	1,486	57.3	1,093	1,639
S H 10	29	1	228	75	完	5,542	19.2	1,449	56.5	1,062	1,598
S H 250	27	1	219	67	完	4,658	21.7	1,373	57.6	1,011	1,530

興部町 及川さん

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生総重 kg	生総重中 のTDN 比 %	風乾物 総重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	TDN 収量 kg/10a	雌 穂 生 重
	雄 穂	絹 糸									
5月8日播		5,050本 (66×30)		収穫9月21日							
N 75 日	7月28日	8月4日	183	65	黄 中	4,148	17.5	1,009	51.1	726	1,284
N 85 日	30	7	183	66	糊	4,896	17.6	1,197	51.7	862	1,533
N 95 日	8月5日	12	233	94	乳 後	6,265	16.1	1,418	47.9	1,007	1,892
ワセホマレ	7月28日	3	161	40	黄 前	3,674	17.7	907	50.5	650	1,061
S H 10	27	5	197	63	黄 中	4,903	18.0	1,226	51.9	884	1,435
S H 255E	27	4	198	78	黄 中	4,505	20.3	1,256	55.1	916	1,473

せています。過熟のロス対策が出てきます。それと圃場の中と外の差もありますが、交配の組合せでも差があります。単交配は揃がよいが、複交配になると品種によりバラツキがあります。(三浦) 宗谷の場合、過熟よりも如何に黄熟期まで到達させるかが当面の問題で、10月5日頃と指導していましたが、今後は熟期に合わせて収穫するようもって行かなければならないと思います。(松岡)

2 牧草の部

試験内容 試験畑の設定内訳は次の通りです。

- ①アルファルファ主体草地，八雲，千歳，美瑛
 - ②採草混播草地，伊達，枝幸—高橋，興部
 - ③放牧専用草地，美瑛，枝幸—津川，興部 計9
- 調査項目としては、品種組合せと播種量，施肥収量性，マメ科率など

収量性 2年目で6,000 kg以上取れば満足してよいと思う。今後雑草対策と施肥管理を適切に行って質量共に良い成績を収めたい。(和田他)

アルファルファ草地 利用形態をみると、1番刈，サイレージ，2，3番刈乾草という形が一般だが，八雲では3番もサイレージに，千歳では3番を低水分サイレージに，美瑛では4番を青刈にしています。ただ千歳の場合は調整不良と梱包サイレージの貯蔵法が悪く結果は失敗でした。(佐竹)

アルファルファ草地にラジノクローバを少し入れるとトラクターによるすりきれの裸地防止になります。混播相手としては晩生のオーチャード，ヘイキングで大体良く調和しているとみています。

1番は出来るだけ早く刈ることにし，天候が良ければ乾草，悪ければサイレージという構えで，6割位を乾草にするようにしています。(菅野)

採草地 私のところは都合で非常に悪い畑にな

り，52年7月15日掃除刈りを行い，一時は雑草に圧倒されるかと思ったのですが，53年は3回刈5.3 tでした。2番刈後尿散布を行えばもっと収量が上ったのではないかと思います。(高橋)

興部では，1番収穫後ずっと早魃でサッパリ伸びず，2番草はとうとう9月7日となり1.4 tでした。他の農家の採草地よりは2年目である為か品種組合せがよかった為か良い成績でした。(加藤)

放牧地 興部の放牧地は2年目通しで5 t位だと思います。マメ科率は9月に入って18%ですがもっと良かった場所もありました。アルサイクローバが入っていますが，西紋地区のような重粘土では重要なマメ科草と考えられます。(加藤)

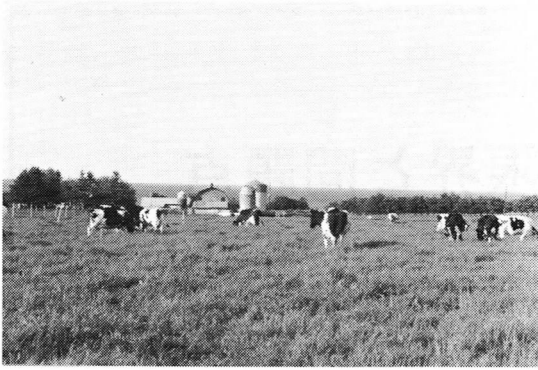
枝幸では7回放牧して20日間隔としました。2回目の時天候が良かったので牧草の伸びが良く，乾草にしたらと思う位伸びましたが，うまかったためかキレイに食べてしまいました。8月18日5回目のあとで雨が来ると思って尿散布をしましたが，雨が降らなかったのが悪かった。このためマメ科が減退したと思います。しかし19%位で終わったと思いますし，私はアルサイクローバがよければ短年で消えてもその株の根は，必ず土壤に有機物を残してくれるのだから，マメ科は絶対に役立つのだと確信を持っています。堆肥や尿を十分やって良い圃場に放牧地を作ると，良い放牧草地が出来ます。そうすると牛はキレイに喰ってくれるので，掃除刈もいらなくなります。(津川)

7回放牧で7.5 tとは大したものですね。イネ科の草種構成はどんな形になっていますか。というのは，天北地帯ではライグラスの越冬が悪い様に聞いていますが，嗜好性のよいペレニアルライグラスやケンタッキーブルーグラスのトロイといっ

道南・道央・道北モデル栽培 牧草 昭和53年成績

町村名	酪農家	草種	品 種 (播種年月日)	播 種 量	施 肥 月 日	肥 料 名	施 肥 量	成分 kg/10a			収 穫 月 日	収 量 kg/10a	利 用 別	マメ 科率	
								N	P ₂ O ₅	K ₂ O					
八雲	細川和彦	Af	デュビュイク	1.0kg	4. 27	055	20kg	2.0	5.0	3.0	7. 1	3,820	サイレージ	% 55 60	
		Af	サラナック	1.0	"	686	20	3.2	3.6	3.2	8. 5	1,320	乾 草		
		Oc	ハイキング	1.0	7. 6	757	30	5.1	1.5	5.1	9. 28	960	サイレージ		
			52. 5. 1播種	3.0	8. 9	計	757	20	3.4	1.0	3.4	計	6,100		
伊達	真柳源太郎	Oc	フロンティア	1.2kg	4. 15	トモエノ	40kg	2.8	4.8	2.4	6. 19	4,720	乾 草	マメ 科少	
		Ti	ホクオウ	0.5	6. 20	硫 安	30	6.3			8. 3	2,268	乾 草		
		Mf	トレーダー	0.4	8. 4	N K	30	4.8		6.0	10. 9	456	乾 草		
		Hr	テトリライト	0.2		計		13.9	4.8	8.4	計	7,444			
		Rc	ハミドリ	0.5		52. 11. 20追播	0.5kg								
		Lc	リーガル	0.2		(Oc フロンティア 0.2)									
	52. 9. 11播種	3.0		(Ti ホクオウ 0.3)											
千歳	佐竹公男	Af	デュビュイク	1.5kg	早 春	草 地	8	45kg	5.4	4.1	0.9	6. 17	乾 草	67%	
		Ti	ホクオウ	0.8	I刈後	"	"	45	5.4	4.1	0.9	8. 1	乾 草		
		Mf	トレーダー	0.5	II刈後	"	"	45	5.4	4.1	0.9	10. 16	乾 草		
		Wc	ニュージーランド	0.2		計			16.2	12.3	2.7	計	6,460		へーレージ
美瑛	菅野勝見	Af	サラナック	1.5kg	4. 20	644	40kg	2.4	5.6	5.6	6. 14	2,900	乾 草	40%	
		Oc	ハイキング	1.5	6. 20	N K	10	1.7		1.7	7. 22	2,178	乾 草		
		Rc	ハミドリ	0.3	"	牛 尿	2,000ℓ				8. 21	1,550	乾 草		
		Lc	ニュージーランド	0.2	8. 5	牛 尿	2,000				10. 18	1,719	青 刈		
			49. 5. 8播種	3.5	9. 1	堆肥炭カル	40kg	2.4	5.6	5.6	計	8,347			
			52. 5. 5播種	3.0	10. 25	計	2t100kg	6.5	11.2	13.6	計	8,347			
枝幸	津川晴雄	Oc	マスハーディ	0.8kg	4. 29	055	30kg	3.0	7.5	4.5	5. 16	850	放 牧	19%	
		Ti	ホクオウ	0.6	7. 9	757	30	5.1	1.5	5.1	6. 15	1,750	"		
		Pr	フレンド	0.8	8. 18	牛 尿	1,200ℓ				7. 5	1,100	"		
		Kb	トロイ	0.4		計		8.1	9.0	9.6	7. 24	1,000	"		
		Lc	カリフォルニア	0.3		前期の高収量は前年の堆肥のため後期は肥料不足の感あり					8. 15	800	"		
		Ac	テトラ	0.3							9. 26	1,000	"		
	52. 6. 5播種	3.2							10. 6	1,000	"				
									計	7,500					
枝幸	高橋一郎	Oc	フロンティア	0.6kg	4. 29	055	30kg	3.0	7.5	4.5	7. 1	2,910	サイレージ	10%	
		Ti	ホクオウ	1.0	7. 7	757	20	3.4	1.0	3.4	8. 25	2,040	乾 草		
		Mf	トレーダー	0.6	8. 31	757	5	0.8	0.3	0.8	10. 12	405	放 牧		
		Rc	ハミドリ	0.4		計		7.2	8.8	8.7	計	5,355			
		Ac	テトラ	0.2											
		Lc	リーガル	0.2											
	52. 6. 5播種	3.0													
興部	及川政雄	Oc	フロンティア	1.0kg	4 下	122	40kg	4.0	8.0	8.0	6. 16	3,050	サイレージ	46%	
		Ti	ホクオウ	0.7	6 下	757	20	3.4	1.0	3.4	9. 7	1,400	"		
		Mf	トレーダー	0.5		計		7.4	9.0	11.4	計	4,450			
		Rc	ハミドリ	0.6											
		Lc	リーガル	0.2											
			52. 5. 27播種	3.0											
	Oc	マスハーディ	0.8kg	4 下	122	30kg	3.0	6.0	6.0	6. 16	3,200	サイレージ	44%		
Ti	ホクオウ	0.6	5 下	757	20	3.4	1.0	3.4	9. 7	1,400	放 牧				
Pr	マンモス	0.8		計		6.4	7.0	9.4	計	4,600					
Kb	トロイ	0.4													
Lc	カリフォルニア	0.3													
Ac	テトラ	0.3													
	52. 5. 27播種	3.0													
造成時の基肥堆肥5t 炭カル 600kg 熔燐 75kg 草地化成 40kg/10a															

註 Oc:オーチャードグラス Ti:チモシー Mf:メドーフェスク Pr:ペレニアルライ Hr:ハイブリッドライグラス
Kb:ケンタッキーブルーグラス Af:アルファルファ Rc:アカクローバ Lc:ラデノクローバ Wc:シロクローバ
Ac:アルサイククローバ



オホーツク海に見える高橋さんの草地と乳牛

た品種がこの放牧地に入れてありますがこれらが残ってくれると非常に好ましい訳です。(中野)

53年ではかなり見受けられました。(加藤)

[補記]54年春の調査では、ペレニアルライグラス4倍体のフレンドですが20%、ケンタッキーフルーグラスのトロイが15%位の構成になっていました。(藤岡)54年6月6日1番放牧後。

施肥管理 放牧地の施肥は、採草地にやるときいつでもという感じでやっているのですが、平均に収量の上るやり方としては、どういふ施肥法がよいのでしょうか。(菅野)

20日間隔で廻るとすれば、その都度放牧終了直後に分施するのでいいじゃないでしょうか。もちろん混播組合せ、播種量も関係ありますが、堆肥を十分入れ、整地後尿も散布しておくとも季節生産性の面でずっと良くなります。(三浦)

秋播きの草地 伊達ではスイートコーンを収穫後すき込んで牧草を9月11日に播いたのですが、クローバの越冬がよくないようです。それに反しテトリライトが非常によく、翌年収量構成の主体となりました。テトリライトは湿地に対しても強いようです。(真柳)

テトリライトは再生もよく緊急草地ということで入れたのですが、伸びもよくその点では役立ったと思います。ただクローバ類は道立中央農試の報告にも出ているように、7月中に播かないと、安全でないから秋播きはむずかしいと思います。(三浦)

家畜ビートについて

家畜ビート、モノパールの栽培は菅野さんの所で毎年やっていただいています、例年12tです

が昨年は早魃の影響で減収しましたがそれでも10tとれています。(広門)

給与体系は、冬季20kg/頭、3月中旬～放牧まで20kgで一部ビートパルプを使います。(菅野)

3 飼料給与改善の検討

千歳、佐竹さんの場合 乳量を「10a当たり乳量」としてみると、52年はこの酪農団地の平均より低かったのが、53年は平均を上廻っています。分娩間隔も12.7とかなり良く、成牛一頭当たりの面積では、47aとなりかなり近郊酪農型で厳しいです。また通年サイレージ給与の型で、搾乳牛1日1頭当たり粗飼料からの栄養成分摂取状況では乾物給与量が12.1kg、D C P 614kg、T D N 7,540gで栄養比11.2となっており、とうもろこし、ビートパルプの影響もあり乳牛は健康的な状態です。成牛平均体重600kg、乾物体重比2.01%、ですから乾物喰いこみ量が乳量に結びついてくると思います。

今後の方向として、乳量目標を6,000kg/年にしますと都市型の経営面積ですから、とうもろこしで7tクラスにもってゆくこと、またこれと関連して根菜類の栽培を入れること、もし止むを得なければビートパルプを使ってゆくということが必要で、今後の課題と思われます。(前川)

枝幸町の場合 高橋さんの経営で53年一番変わったのは、とうもろこしサイレージが加わったことで、牛舎の匂いのバニーフレーバーがよくなり、(メタンガス、アンモニアガスの含有量が少なくなり)ましたので、今後の乳質の向上になると思います。

津川さんのところはコーン栽培も3年目となり乳牛の毛づやが非常に良くなっております。それに昨年のチモシー乾草は特に良いもので、この結果が、乳牛2部のコンクールで全道1位の牛が出来たものと思われますし、その牛だけでなく、全部の牛群が活気のある状態になっております。今後も牛の健康と乳量がベストで推移できると思われます。(前川主任技術員)

[道東地区については次号掲載します。]